

瓦の歴史あれやこれや

会長コラム

なぜ孫七瓦なの
（第二回 日本瓦の由来）

わが国の最古の軒平瓦（平唐草軒瓦）は法隆寺の創建伽藍とされており、七世紀初期の若草伽藍跡から出土しています。



平唐草軒瓦と軒瓦
レプリカ

瓦は、仏教の興隆と共に寺院建築で大きく発展しました。我が国に伝来してからの瓦は、発祥の国、中国や朝鮮と異なつた気候風土に合わせて改良が加えられたり、装飾文様が施されるなどし、雄大な木造建築物とよく調和させて千数百年を経てきました。外来の文化を巧みに消化吸収する日本人特有の技術でこの土地の風土に合うように改良され、今日の瓦が生まれたといえるでしょう。

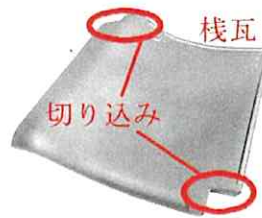
江戸時代には棧瓦（江戸瓦・簡略瓦）が発明されました。このことは長い瓦の歴史の中で特筆すべきことです。

棧瓦は延宝年（一六七四）に西村半兵衛という人が工夫して作り、三井寺（滋賀県大津市）の万徳院玄関の屋根に使われたのが最初だといわれています。

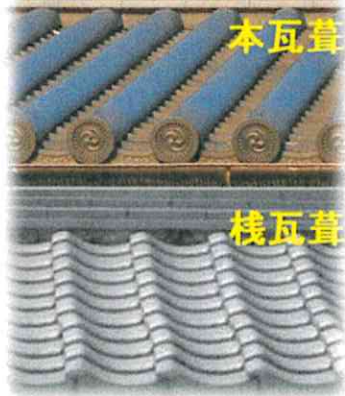
江戸時代中期の60年間あまり、一般民家の屋根に瓦を使用する事は禁じられておりました。しかし度重なる大火に悩まされていた八代將軍吉宗公は、江戸の大火被害を少しでも抑える為、1720年瓦の使用を再び奨励しました。初めは武家屋敷から、そして町人、特に商家へ広めました。合わせて、壁には土蔵と同様、防火効果の高い漆喰で塗り腰高までのナマコ壁を奨励しました。

町火消しの「い・ろ・は」組やテレビドラマで有名になった「め組」も大火の延焼を防ぐため江戸時代に作られました。こうして棧瓦は、社寺以外の一般住宅の瓦葺き屋根の普及に大きく役立

つと同時に、瓦作りが産業として確立していくことになりました。本瓦葺で使われる2種類「平瓦と丸瓦」を1種類の瓦で葺けるようにする改良の完成には、切込みの工夫など10年以上の年月がかかったといわれています。



屋根の葺き方については、2種類の瓦「平瓦と丸瓦」を使って社寺等の屋根を葺く従来からの工法と、一般住宅等の屋根を葺く工法を区別するため、従来の瓦による葺き方を「本瓦葺」、改良した瓦によるものを「棧瓦葺」とする名称が生まれました。



孫七瓦工業株式会社の
経営理念 II 目的理念

私たちは、日本建築の文化の継承と、伝統を活かした技術革新を通じて社会に貢献します。

行動理念

一、私たちは、安全で安心できる快適な住まいのある暮らしを提供します。（科学性）

一、私たちは、社会に信頼される会社となり、地域社会の発展に貢献します。（社会性）

一、私たちは、共に学び、共に育ち、全社員の幸福を追求します。（人間性）

この経営理念は孫七瓦工業株式会社が継続的・計画的に社会に役立つ企業としての根本的な価値基準です。

取り上げてほしいテーマや皆様のお屋根にまつわる体験談・お勧めのカフェや奈良のお勧め情報なども随時募集しております。

まごひち瓦版は不定期発行です、バックナンバーは弊社ホームページでご覧いただけます。かわら版の送付停止をご希望の方は編集部までご連絡下さい。ご連絡と発送が前後した場合は次号より停止させていただきます。

〒636-0143 奈良県生駒郡斑鳩町神南3-13-13 孫七瓦工業(株) まごひち瓦版編集部
☎ 0745-74-1218 HP <https://www.magohichi.com>